

市議会議員
かけのまち子
電話/Fax 53-7727
kakenom@xj.commufa.jp



市議会議員
みわ 陽子
電話/Fax 54-6712
yokko0520mi@yahoo.co.jp



NO. 459 2020.7.2
日本共産党江南市委員会

あすの江南

前市議 森ケイ子 電話/Fax 57-2753
前市議 東よしき 電話/Fax 54-7977

* 困り事は早めにお気軽にご相談ください

日本共産党江南市議員団 HP



検索

6月定例会

早急にコロナ対策大型予算を



かけのまち子議員

〈一般質問〉

三輪陽子議員

(1) 特別定額給付金(一人10万円)について

給付が遅れた原因は市職員不足から、専任の推進室を設置できず、業務の大半を一括で民間に委託したものの、業務場所を民間に任せた結果名古屋市内となり、市による調査監督が十分に行き届かなかったこと、受託者が処理能力を超えて多くの他自治体業務を受託し、市職員の応援で遅れを打開することも不可能だったことなど、他自治体の調査を踏まえて検証し、今後の教訓として生かすべき3点を指摘しました。

①市民目線で考え、政策を立てること。②個人情報保護を徹底すること ③過度の民間委託依存を止め、市職員を増やすこと。

(2) 公共施設利用者の名簿提出について

公共施設再開にあたり、各施設で利用者名簿の提出を要求しているが、個人情報保護条例が禁じている、思想信条、信教、社会的差別の原因となる恐れのある個人情報の収集にあたりと指摘。「新型コロナ対策としての任意の名簿提出であり、団体代表者が出席者の連絡先をつかんでいけば、代表者の連絡先の提出だけでよい」との答弁を得ました。

(3) 市民税、国保税などの減額免除を

昨年の所得に対して課される市民税、国保税については、今年の所得がコロナ禍で大幅に減少する見込みの場合、免除や減額制度があることを具体例をあげて周知徹底し利用を促進するよう求めました。

(4) 積極的な独自支援を

国の追加臨時交付金を活用し、早急に大型補正予算を組み、積極的な独自支援策を打ち出すよう要望しました。

(1) 新型コロナの検査、医療体制強化を

第2波、第3波に備えて、今のうちに新型コロナウイルスの検査センターや発熱外来の増設を要望しました。

検査センターや治療については県の事業でわからないが唾液での検査も可能になったので、検査センターの要望をしていくとの答弁でした。



(2) 新型コロナ対策しながら高齢者の健康を

市の運動教室や地域サロンの再開について質しました。運動教室は10月からの再開をめざし、サロンは新型コロナ対策をして早いところでは6月から再開との答弁でした。

(3) 日光川上流の調節池の進捗状況について

県予算は用地買収の予算ではなく、昨年同様、最も効果的な場所を調査するためのものとの答弁で、1年前から何も進んでいないことがわかりました。市長に県への強力な働きかけを要望しました。

(4) 児童・生徒と教職員の健康と安全を

教員が子ども達の様子に気を配り、授業内容の精選などに力を尽くすため、消毒などの作業は外部に委託すること、学級は距離をとるためまた学力保障のためにも少人数授業に取り組むことを要望しました。教員の増員は難しいが、作業するスクールサポーターの各校1名配置は県に要望中とのことでした。

6月定例会追加議案

ひとり親世帯臨時特別給付金 (全額、国の交付金)

児童扶養手当受給世帯に対し

1世帯5万円 コロナ禍で収入減は申請で追加5万円

第2子以降1人につき3万円を追加。

*現在児童扶養手当の受給対象外の世帯でも、新型コロナウイルス感染症の影響で収入が急減し、受給水準以下になった世帯は、申請で9月以降支給されます。

布袋駅東複合公共施設

2事業者から提案書の提出がありました

5月29日の締め切りまでに、2社から応募があったことがわかりました。今後、事業者選定委員会(非公開)での審査をへて、順調ならば、7月下旬までに優先交渉権者が決定される予定です。

3月議会で可決した附帯決議(=「公共と民間商業施設の合築が可能となるよう、未取得地419㎡を市が買い取りまたは借り上げるまで予算執行を凍結すべき」)の関係で、議会との調整が難航する可能性があります。(党議員団は、合築方式の推進は、公共施設の安定性に欠け無謀との判断で付帯決議に反対しました。)

尾北医師会との懇談

6月10日、党議員団は須山はつみ県副委員長も参加し、尾北医師会の今井会長との懇談を尾北医師会館で行いました。

会長に今後の検査・医療体制について伺いました。

今の医療体制はしっかりしているので、その中に新型コロナウイルスをやり込ませないことが大切。

江南市では江南厚生病院が発熱外来を引き受けている。ぜひ財政支援をして支えてほしい。

唾液でのPCR検査が可能となっても一般病院で検査をするのは難しい。検査センターを作りそこへ交代で医師が出ていく方が可能性はある。

発熱外来を作り、そこで検査が必要となったらすぐに検査をして、中等症以上は入院させ、軽症者は施設に収容して他の人にうつさないようにすることが大事。発熱した時はまずかかりつけ医に電話で相談することを徹底してほしい。

秋、冬にはインフルエンザワクチンの接種がいつもの年より重要との話で一致しました。市議会が全会一致で請願を採択した「子どものインフルエンザワクチン助成」の一日も早い実施が必要です。

